

支えられるから支えるへ

NPO法人さやま保育
サポートの会 代表 諏訪きぬ

ふたりのお子さんを育てる間中、頻りにプレイスに足を運んでいたMさんが、市民大学パパママお助け隊養成学科に学び、無事、修了されました。上のお子さんを幼稚園に送り、下のお子さんを元気プラザの保育室に預けての奮闘でした。受講態度もよく、明るくハキハキした振る舞いが好印象だったのでしょうか、講座を運営するスタッフからは「講座スタッフに！」と推薦する声も上がったほど…。彼女は修了式を終えて「私でよかったら是非奥富プレイスでお母さんたちのお手伝いがしたい！」ときっぱりとした口調で語ってくれました。自分が子育て中に助けられたからこそ、その体験を活かして助けていきたい！プレイスを運営する側にとって何と嬉しい言葉でしょうか。「支えられるから支えるへ」この循環が数多く生まれたら、狭山は正真正銘の子育てのしやすい街になることでしょう。Mさんに、そしてMさんに続くあなたにエールを送ります。

秋も深まってきました。

かかし祭りの黄色いのぼり旗が刈田の周りを彩り、その上には冠雪した富士山が浮かんでいます。柿の実もすっかり色づいて、晩秋の気配が色濃くなってきました。急に冷え込む日もあります。衣服の調節をこまめにするといいですね。



さやま子どもフェスタ in 智光山

10月12日(日)、“子育て支援ネットワーク”主催の“さやま子どもフェスタ”が盛大に行われました。智光山の芝生広場を使い、今年新設したステージひろばでは輪島直幸さんの体操遊び、フラダンスやダンスの発表が繰り広げられました。

ほかにはおはなしひろば、バルーンひろば、赤ちゃんひろば、ぼうけんひろば、あそびのひろば、そして奥富プレイスが担当した“フリマ&caffee”と6つのひろばが用意され、お昼を挟んで、ゆったりと900人の親子が集い、楽しいひとときを過ごしました。大型台風19号が接近する前日でしたが、ミラクルなほど穏やかな日に恵まれ、



フリマ&カフェの仲川市長さん



4時間にわたって楽しいひとときがもてました。卒所した子ども達もお父さん、お母さんと姿を見せてくれ、その成長がなつかしくもありうれしいものでした。本当にさわやかな秋晴れの中、なごやかに子どもフェスタを終わることが出来ました。皆様にご協力いただいたフリーマーケットにもぎわいを見せ、なごやかな交流も

生まれました。尚、残った品物については全て狭山市NPO法人ぶどうの会（オアシス作業所）に寄付をさせていただきました。ぶどうの会代表の吉野さんからも感謝の言葉が届いています。ありがとうございました。

タッチケア

恒例のタッチケア。申込者のみでまった〜りしたタッチケアも今回で3回目。新しい人だけではなく、リピーターの方も。今年は最後にみんなで輪をつくり前の人の背をなでなでし、次は反対にさすってもらった



人の背をさすって終わりました。背中も心もほっこり…。赤ちゃんもお母さんのタッチケアでご機嫌です♡

